

圏央道 茨城県区間開通のストック効果

鉄道や高速自動車道などの延伸が図られる、人やモノの移動時間が短縮して利便性が増す。こうした交通インフラなど社会資本の整備によって生産性が向上し経済活動が活発化、防災面でも向上することを「ストック効果」という。北関東では、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の茨城県内・境古河インターチェンジ(IC)1つは中央IC間(28.5キロ)が26日に開通し、東武高速道路から東関東自動車道までが結ばれた。大きなストック効果が期待される。この機会をどう生かすか、茨城県が地域経済活性化にどう取り組むか、茨城県関係者や関係機関の担当者に話を聞いた。聞き手は、コンサルティング事業や地域創生支援事業などを手がけるリック・ビジネスソリューション(東京都千代田区)の渋谷耕一代表取締役を務めた。【まとも 佐藤浩二]

渋谷 耕一氏



新滝 健一氏



石川 雄一氏

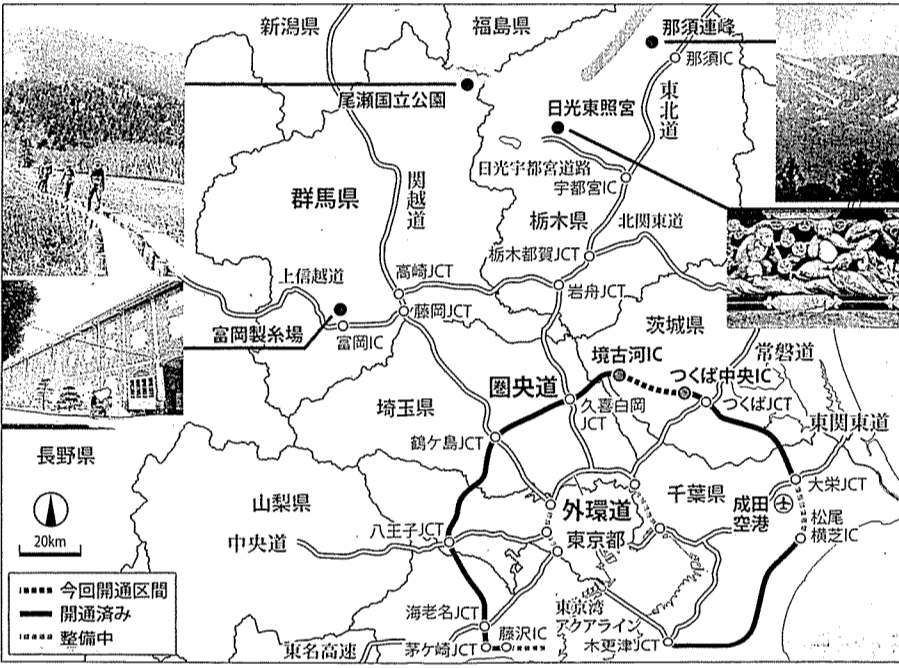


斎藤 一雄氏



地域活性化の好機

企業誘致で人口増加 新滝氏
高速整備で雇用安定 石川氏
塾創設し経営者育成 斎藤氏



渋谷 まずは斎藤頭取、2016年4月からの群馬銀行中期経営計画の基本政策方針にある取り組みを紹介してください。

新滝 茨城県では地域創生、地域活性化をどう考えますか。

関東北部の物流拡大 新滝氏
広域連携で集客効果 石川氏
富岡など観光追い風 斎藤氏

新滝 茨城県では地域創生、地域活性化をどう考えますか。

開通のめどを示せば企業が投資計画を立てやすくなります。民間投資が生まれ、雇用が生まれ、税収にもつながるため、経済好循環を目指すインフラ投資に取り組みたいです。